

事業報告書

一般社団法人大阪いばらきホッケークラブ（対象期間：2025年6月～2026年3月）

はじめに（総括）

本事業報告書は、一般社団法人大阪いばらきホッケークラブ（以下「当法人」）が、設立準備開始から法人設立、ならびに初年度事業の立ち上げに至るまでの経過および成果を、社員総会に報告することを目的として作成するものである。

当法人は、立命館ホッケークラブを母体に、ホッケー日本リーグへの参戦を中核としつつ、地域・市民・卒業生と連携した持続可能なクラブモデルの構築を目指し、2030年を中期目標年次として段階的な自立を志向している。

【第1部】 法人全体に関する事業報告

1. 法人設立の背景・目的

日本ホッケーリーグを取り巻く環境変化および大学スポーツを巡る制度・財務環境の変化を踏まえ、以下を目的として法人設立の検討を開始した。

- ・日本リーグ参戦を継続・発展させるための安定的な運営基盤の構築
- ・大学・地域・OBG・市民をつなぐ新たなクラブ運営モデルの確立
- ・将来的な財務・運営の自立を見据えた組織基盤の整備

2. 法人設立までの主な経緯

(1) 検討・準備フェーズ（2025年6月～9月）

- ・大学ホッケー部の将来像（競技力強化、外部資金獲得、地域連携）の実現へ、法人化の必要性を正式に確認
- ・大学（学生部・スポーツ強化部・地域連携課）と協議を行いながら進める方針を共有
- ・タスクと担当者を決め、担当者がMTGでタタキ案を提示し、全員で議論して決定する組織にすることを確認
- ・分科会方式を導入し導入し、大学との協議事項を共有し、テーマ別に検討を加速
- ・設立時の役員構成および組織体制案を確定

(2) 基本構想（MVV）整理（2025年9月～10月）

- ・大学と協議するため、Mission・Vision・Value（MVV）案を策定
- ・2030年を目標年次とし、段階的に法人機能を強化しながら自立を目指す構想を共有
- ・当面は次のように役割分担を整理
 - ア) 日本リーグ参戦主体：大学チーム
 - イ) 法人の役割：ホームゲーム運営、地域連携、資金獲得

(3) 法人設立（2025年12月）

- ・法人名を「一般社団法人大阪いばらきホッケークラブ」と決定
- ・立命館ホッケークラブ（RHC）の活動を継承する方針を確認
- ・2025年12月22日 定款認証完了
- ・2025年12月26日 設立登記完了

(4) 立命館ホッケークラブとの関係および体制を整理（2026年1月～3月）

- ・現在のRHCを中心とした組織を残し、法人内に事務局を置けるなど密接に連携し、業務委託または共同事業を行う
- ・大学ホッケー部と法人の関係を「委託」ではなく「強化連携」とする
- ・大学OBG会は存続し、法人内に事務局を置けるなど法人に対し協力、支援を行う
- ・中高OBG会は現行通り維持。法人はあくまで「支援」の立場を明確にし、無理に統合しない

・その他組織とも関係および体制を調えた

3. 2025 年度（設立年度）の主な決定事項・成果

(1) 会員制度（OHIC 会員）の確立

- ・会員区分を、「サポーターズ会員」と「プレーヤーズ会員」の 2 区分とした
- ・入会障壁を下げ、地域に開かれたクラブを志向
- ・年会費回収・会員管理に「会費ペイ」を導入し、事務負担を軽減
- ・都度参加費回収に、キャッシュレスを導入すること、端末は stera を活用

(2) 財務・管理基盤の整備

- ・SMBC トランク（法人向けネット口座）で法人口座を開設
- ・日本リーグ関連収益および分配金を法人口座で一元管理
- ・興行権費用・借入金の整理を行い、将来見通しを関係者間で共有
- ・日本クレアス税理士法人を顧問税理士とし、freee 会計システムを導入
- ・Microsoft365 を法人の IT 基盤として導入

4. 大学・行政・地域との連携

- ・大学とは「委託」ではなく、強化連携関係として整理
- ・茨木市と正式に協議を実施し、当法人が「茨木市をホームタウンとして活動するクラブ」であることを確認
- ・市民デー、学校訪問、体験会など、将来的な連携事業の可能性を整理
- ・2月に茨木市長を訪問し、4月にスポーツ推進課を傘下に置く「共創文化部」部長名で「連携協力」についての「協力承諾文」を取得

5. 2030 年を見据えた自立方針

- ・「今すぐの完全自立」ではなく、2030 年をリミットとし、毎年評価しながら自立時期を判断する方針を決定
- ・自立判断の評価指標として、次の 3 点を設定
 - ア) 財務自立
 - イ) 卒業生の受け皿機能
 - ウ) 運営体制

【第 2 部】分科会・機能別事業報告

6. 大学と法人で目指すべき姿を設定

- ・法人の MVV 策定により目指す姿を共有
- ・日本リーグのアセスメントに対し、現状評価と、すぐに取り組むべき課題を共有
- ・法人の目指す姿の実現に向けた活動項目と費用規模、スケジュール感を共有
- ・大学と法人の関係を整理

7. 管理・財務についての議論

(1) 資金管理の整理

- ・学校法人・大学・法人の資金の流れを厳格に区分
- ・学校法人 → 大学ホッケー部 → 法人：条件付きで可（大学チームに必要であることを証明できるもの）
- ・学校法人 ↔ 法人の直接的資金移動：不可

(2) 広告・寄付の整理

- ・施設を媒体とする広告・寄付は大学主体で実施

- ・法人保有の可動式看板等は、法人主催試合に限定して法人収支とする可能性を検討課題とした
- ・寄付金は「大学チーム強化」を目的とする整理を確認

8. スポンサー獲得分科会（準備）

- ・2026年度中にスポンサー獲得活動を本格化することを決定
- ・パートナー区分の整理、ターゲット企業選定を検討
- ・企業人事（採用・ブランディング）視点を取り入れた提案設計を検討

9. 今後に向けた位置づけ

当法人は、

- ・大学ホッケー部を支える外部組織
- ・地域と大学をつなぐハブ
- ・2030年を見据えた自立クラブへの移行主体

として、段階的に機能を拡張していく。

決算報告書

(第1期)

自 令和 7年12月26日
至 令和 8年3月31日

一般社団法人大阪いばらきホッケークラブ

貸借対照表

(令和8年3月31日現在)

法人名 一般社団法人 大阪いばらきホッケークラブ

所在地 大阪府吹田市千里丘上36番3-606号

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金及び預金	689,160	0	689,160
未収収益	17,102	0	17,102
未収金	605,000	0	605,000
流動資産合計	1,311,262	0	1,311,262
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
特定資産計	0	0	0
(1) その他の固定資産			
その他の固定資産計	0	0	0
固定資産合計	0	0	0
資産合計	1,311,262	0	1,311,262
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	13,851	0	13,851
流動負債合計	13,851	0	13,851
2. 固定負債			
役員借入金	1,745,838	0	1,745,838
固定負債合計	1,745,838	0	1,745,838
負債合計	1,759,689	0	1,759,689
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
2. 一般正味財産	△ 448,427	0	△ 448,427
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
正味財産合計	△ 448,427	0	△ 448,427
負債及び正味財産合計	1,311,262	0	1,311,262

正味財産増減計算書
(自 令和 7 年 12 月 26 日 至 令和 8 年 3 月 31 日)

法人名 一般社団法人 大阪いばらきホッケークラブ

所在地 大阪府吹田市千里丘上36番3-606号

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益		0	0
受取負担金	91,805	0	91,805
経常収益計	91,805	0	91,805
(2) 経常費用			
事業費			
支払負担金	330,543	0	330,543
事業費計	330,543	0	330,543
管理費			
消耗品費	76,808	0	76,808
消耗什備品費	19,831	0	19,831
租税公課	113,050	0	113,050
事業費計	209,689	0	209,689
経常費用計	540,232	0	540,232
当期経常増減額	△ 448,427	0	△ 448,427
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外損益額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 448,427	0	△ 448,427
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	△ 448,427	0	△ 448,427
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III. 正味財産期末残高	△ 448,427	0	△ 448,427

※当期の費用は全て、公益目的事業にのみ係る費用である。